



市民活動情報 社協だより

発行日：令和5年1月25日

発行部数：3,000部

手話通訳
要約筆記
あり

入場料
無料

令和4年度 伊丹市共生福祉社会 フォーラム

共生福祉社会の実現を目指して
～つながるって楽しい！支え合いの地域づくり～



日時：令和5年2月11日(土・祝) 開場 12:30

13:30～13:55 伊丹市社会福祉協議会会長感謝状贈呈式

14:00～16:30 伊丹市共生福祉社会フォーラム

場所：東りいたみホール 大ホール

主催：伊丹市・伊丹市社会福祉協議会



目次

特集

- p 1～2 …… 伊丹市共生福祉社会フォーラム
- p 3 …… 新年のごあいさつ、表彰者紹介
- p 4～5 …… 地域の中の私の居場所
- p 6 …… 知的・発達障がいについて、自筆証書遺言書保管制度のご案内
- p 7 …… アイ愛センター事業案内・報告
- p 8 …… 赤い羽根共同募金のご報告

令和4年度 伊丹市共生福祉社会フォーラム

住み慣れた地域で、安心して自分らしく暮らしていけるまちづくりを目指すため、本フォーラムを開催します。お互いを認め合い、すべての市民がともに支え合う地域づくりについてご近所福祉クリエーターの酒井保氏にご講演をいただきます。その後、座談会形式で気かけ合い、支え合うために、つながりづくり、地域づくりについて「楽しい」をキーワードに取り組んでおられる方々からの実践報告をしていただき、コーディネーターを中心に登壇者が意見交換を行い、今後の伊丹市における共生福祉社会実現を目指した地域づくりについて皆さんと一緒に考える機会としたいと思います。是非ご来場ください。



内容

① 社会福祉協議会会長感謝状贈呈式

..... 伊丹市共生福祉社会フォーラム 開演

② 開会 あいさつ



③ 基調講演

テーマ：「共生福祉社会の実現を目指して
～安心で楽しい地域づくり、つながりづくり～」
講師：酒井 保氏（ご近所福祉クリエーター）

④ 座談会

パネルディスカッション
「つながるって楽しい！支え合いの地域づくり」
登壇者：稲野自治会 会長 森近 勝行氏
西鈴原自治会 会長 原田 明氏
みどりOTON-A会 代表 井村 正明氏
コーディネーター：酒井 保氏（ご近所福祉クリエーター）

..... 閉 会

③ 基調講演講師

④ パネルディスカッション コーディネーター

ご近所福祉
クリエーター
酒井 保氏



1961年広島県生まれ。知的障害者施設、社会福祉協議会、認知症グループホーム・小規模多機能施設長などの勤務を経て、2014年8月に「ご近所福祉クリエーション」を創設（主宰）。「ご近所福祉クリエーター」という肩書のもと、広島、仙台を拠点として全国を講演行脚。NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンターアドバイザー。イラストレーターとしても活躍中。

<主な著書>

「見守り活動」から「見守られ活動」へ ～住民歴書とエゴマップのすすめ～ [CLC 発行]、元気を生み出す！ご当地サロン／新しい総合事業大見本市 [CLC 発行]、生活支援コーディネーターと協議体（マンガ・イラスト）[CLC 発行]、コロナ下で考える気かけ合う地域づくり（共同執筆）[CLC 発行]

④ パネルディスカッション登壇者

稲野自治会
会長 森近 勝行氏

自治会長として、地域活動の推進に取り組む。楽しい活動を進め、自治会活動への参加者を増やし、新たな担い手の発掘や自治会活動の活性化に向けて取り組んでいる。防災士としても活動している。

西鈴原自治会
会長 原田 明氏

自治会長として、地域活動を進めるほか、NPO 法人あまがさき環境オープンカレッジの理事や、ラジオ DJ としても活動。「地域をおもしろくしたい」との思いから様々な形で地域の活動に関わっている。

みどり OTON-A 会
代表 井村 正明氏

緑丘小学校 PTA の中で父親の会として発足。「できるときに、できることを、できるひとがする」をテーマに、子どもと地域をつなぐたくさんの楽しいきっかけを企画し、実践している。



新年のごあいさつ

伊丹市社会福祉協議会 会長 行澤 睦雄



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、令和5年の新春をお健やかに迎えられることとお慶び申し上げます。

平素は、本会の事業運営に対しまして、深いご理解と格別のご支援、ご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、本年は、本会が、昭和48年に社会福祉法人格を取得して50年という大きな節目の年となります。この半世紀という長きにわたり、関係者の皆様方の献身的なご努力とともに、地域福祉の推進にご尽力をいただきました皆様に対しまして、心から敬意を表しますとともに、改めて感謝申し上げます。

現在、3年にも及ぶコロナ禍にあって、人とひととのつながりが希薄化し、経済的にも困窮する方など、地域社会で孤立する方々の深刻さが増していること大変危惧しております。そのような中、伊丹市では、本年4月より、さまざまなお困りごとを抱えた方々を漏らさず、様々な支援につなげる「重層的支援体制整備事業」が本格実施され、本会もその重要な一役を担うこととなっています。

より多くの市民、関係機関・団体の皆様方とともに、伊丹の地域福祉活動を一層推進することが大変重要となっていることから、本年も引き続き、本会の諸活動に対しまして、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

表彰

今年度、下記の個人・団体が各表彰を受賞されました。(敬称略・順不同)



兵庫県知事表彰

- ・民間社会福祉事業功労者 塩見 秀和
- ・民生委員・児童委員等功労者 阪部 茂和 前田久美子 玉氏百合子 榎木きよみ
末田 幸江 中西 和子 阪上 繁昭
- ・優良民生委員・児童委員 西田みどり 篠原由喜江 下園 和子 中井 由紀
- ・民生・児童協力員等功労者 漆原 晶子 大畑由美子 藤本 文代 山田かほる

兵庫県社会福祉協議会会長表彰

- ・社会福祉事業功労者 坂田 一明 菅沼 義伸 橋倉加世子

兵庫県くすのき賞 保育グループダンボ

ひょうご県民ボランティア活動賞 村上 雅弘 三木 一仁

つつじ賞 和太鼓うたし太鼓 伊丹 MOA 健康生活ネットワークさつきの会 秋山 和子 平野 信次 福田美智子

皆様を受賞を報告いたしますとともに、心よりお祝い申し上げます。

※原則、伊丹市社会福祉協議会、伊丹市民生委員児童委員連合会から推薦しました方をご紹介します。

特集 地域の中の私の居場所

地域の交流やつながりが希薄となっている今日、さらにコロナ禍のため人との交流が難しかったことで「社会的孤立」という課題が顕著になったといわれています。

そのような中、“こんな時だからこそ、地域の居場所が大切”と地域の方々はつながりを絶やさない活動を実践してこられました。そこには、「この場に来るのが楽しみ。」「ここは私の居場所なの。」という参加者からの声が届いています。このような参加者の声はボランティアのやりがいにもつながっています。

今回は、地域住民が主体となってつくる居場所を3つ取材しました。



🍴 こども食堂

みどりっこ食堂「大鹿」(緑丘小校区)

令和3年7月にオープンしたこども食堂『みどりっこ食堂「大鹿」』は、こどもや保護者だけでなく、ひとり暮らし等高齢者の方々にも、食事を通して交流できる居場所であってほしいという願いをこめて運営されています。

食堂の代表である武田さんは、「90人の定員の内、高齢者の方は10人ほど来ています。ご友人と一緒に来られているのか、大体2人で来られる方が多いです。ある高齢者から『一人暮らしだと(食べきれないこともあって)家でカレーを作る気にならず、レトルトカレーになるけど、ここに来ると美味しいカレーを食べさせてもらえるし、子どもたちと一緒に大勢で食べることがとても嬉しい。だから、毎月この日が来るのがとても楽しみ』と言われました。食堂を開始した当初から、この場が様々な方々の居場所となることを願い、信頼と安心感をもっていただけるようにボランティア一同取り組んできました。」と話されました。



取材に応じて下さった代表の武田さん(写真中央)と参加者のお二人



17時にスタートして、早い時には30分もかからないうちに定員(90人)に達することも・・・

実際に参加されていた高齢の方にもお話を伺ったところ、「食堂を始められた最初の頃は人も少なかったけど、今では17時にスタートしてすぐに定員になるくらい人もいっぱいになっています。子ども達の活気があふれていてとても楽しいです!」「ボランティアの皆さんもすごく親切に関わって下さるし、ここに来ることで新たな顔なじみも増えました。」「どこかの店で食べるより、子ども達の楽しそうな様子を見ながらこの場所で食べる方がずっと美味しい。」と、笑顔で話してくださいました。

最後に、武田さんは「いつかポスターを作らなくても『第2木曜日 はみどりっこ食堂がある』と覚えてもらえるくらい地域に浸透することが今後の目標です。そのためにも継続開催と、ボランティアが来られた方の名前を覚えることや以前来られていたのに来られなくなった方を気遣う等の取り組みは大事にしていきたい。ただ、次の世代につなげていくためには担い手の確保や継承が課題です。しかし、地域の居場所であり続けたいので、これからも参加者やボランティア等の皆さんと共にこの場をより良い居場所にしていきたいと思っています。」とお話をしてくださいました。



12月はクリスマスプレゼントがもらえる楽しみもあり、皆笑顔いっぱい!!

🍴 こども食堂 とは

こどもが一人でも行ける無料または低額の食堂のこと。こども食堂という名称だが、子どもから高齢者まで参加できる地域交流の場となっている。伊丹市では、令和4年12月現在、15ヶ所で開催されている。

📺 地域交流カフェ とは

住民同士のつながり作りや、出会いのきっかけとして“誰もが気軽に自由に参加できる”カフェ。住民の孤立感の解消や閉じこもり、健康の維持向上、地域での見守り合いにつながっている。

地域交流カフェ

ふれあいカフェみなみ（南小校区）



自治協議会役員とボランティアが中心となって運営している「ふれあいカフェみなみ」は、毎月第2、第4火曜日の9時半～11時半で県民交流広場ふれあいみなみにおいて開催されています。

外では地元でとれた新鮮な野菜を安価で販売しており、それも楽しみの一つとしてカフェへの参加につながっています。

パーティションの設置や検温、消毒等の感染対策を取り、コロナ禍においてもできる限り実施してきました。

「ひとり暮らしの高齢者で特にすることもないし、コロナで遠くに行くこともできない。だから、ここに来ることが一番の楽しみです。」と笑顔で話してくれた参加者のOさん。コロナの影響で近くのつどい場が開催していなかったこともあり、Oさんにとっては、ここが大切な居場所になったそうです。マスターの淹れるおいしいコーヒーを飲みながら、時にはよく顔を合わせる常連さんやボランティアの方々とお話をし、時にはそこで流れるジャズを聴きながら、ゆったりした時間を過ごす。Oさんにとって「ここ」がとても居心地の良い居場所になっている様子うかがえました。

ボランティアさんからは、「コロナでお休みした期間もありましたが、感染対策をきちんとすればできるだろうと令和3年の11月からカフェを再開しました。やはり参加者が減ってしまいましたが、このカフェを開催することで、気兼ねなくお話ができるから嬉しいと言ってもらえたり、毎回楽しみに来てくれる人がいるということが、ボランティアとしてもありがたい励みになります。コロナが落ち着けば、今度はランチの提供も考えていきたいです。」とお話をしてくださいました。



交流カフェの様子

カフェマスター中谷氏

地域交流カフェ

いっぶく邸（昆陽里小校区）



いっぶく邸は毎月第2、第4火曜日の午前10時に寺本東センターで寺本東自治会のボランティアが中心となって運営している地域交流カフェです。このカフェは「ここに来たら誰かに会える」ちょっといっぶく・寄り道できる居場所を作りたい！というボランティアの想いでオープンされました。



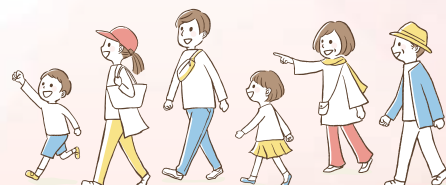
カフェには地域の方や近くにある障がい者支援事業所『どりー夢』の利用者も来られています。また、カフェ開催時にはセンター内の別室で卓球ができるようになっており、カフェで一服してから卓球を楽しむ方も多いそうです。

代表の神田さんからは、「コロナが流行ってからカフェをお休みしている期間もありました。再開後はまだまだ以前のようにはいきませんが、地域の方も足を運んでくださり、再開を喜んでもらっています。この場所があるからこそ、みなさんが顔を合わせることができ、みなさんの元気な姿を見ることができます。また、気軽な情報交換の場になっており、カフェに来られている方がお互いに気にかけて合える場にもなって欲しいと思っています。」と、アットホームなカフェの様子をお聞きしました。カフェに来て元気になって帰られる様子を見るのがボランティアの「元気の源」になっているようで、「このカフェをこれからも続けられたらいいな…」と笑顔でお話をしてくださいました。

どの居場所も参加者の生活には欠かせない大切な居場所になっており、また、ボランティアにとっても地域の方が楽しみに参加してくれること、またその場を大切に思ってくれていることが活動の活力となっているようです。

地域の中に、自分が安心して過ごせる居場所があり、その居場所から人と人がつながり、気にかけてくれる関係が生まれます。「居場所から気にかけてくれる関係へ」。安心して暮らせる地域づくりのために、そのような居場所が今後さらに大切になっていきます。

伊丹市社会福祉協議会では、居場所づくりの支援を行っています。「参加できる居場所を探している。」「居場所をつくりたい。」等ございましたら、地域福祉推進担当(TEL 785-0860)までご連絡ください。



■ 知的・発達障害をご存知ですか？

知的・発達障害は、脳の一部に障害が生じたことが原因でおこると考えられており、そのために言葉を使う、記憶する、抽象的なことを理解することが難しく、知的な遅れが伴うこともあります。また社会の仕組みや流れにうまく適応することが苦手で、暮らしにくさを抱えている人もいます。しかし、一人ひとりのちがいに合わせた必要な支援や言葉がけによって、できるようになることもたくさんあります。

■ 具体的にはこのような特性をもっている方もいます。

抽象的な言葉は理解しにくい

例えば「コップにちょっと水をいれて」の「ちょっと」という言葉が理解できません。



具体的に伝える

印をつけて具体的に示したり、身振りやイラストを見せて話すと伝わりやすくなります。

手先が不器用

道具を使うことが苦手な人、ひもがうまく結べなかったり、字や絵をかくことが苦手な人もいます。



ゆっくりゆったり見守る

ゆっくりゆったり取り組めるような言葉がけや、逆に声をかけることで気が散る方は黙って見守るようにしてください。

興味のある物しか見えていないことも

例えば、キラキラ光る物が好きな人はキラキラするアクセサリーを身につけている人を見ると、その物しか見えず触りに行ってしまうことも。相手が迷惑な顔をしていても全く気づきません。



はっきり伝える

周りの人に迷惑をかけている場合は「やめてください」と具体的にはっきりと伝えると理解できます。



■ 知的・発達障害について、楽しく知って理解を深めていただくためのワークショップを行っています。

●聞こえ方・見え方の違い

どんなふうに聞こえているの？
どんなふうに見ているの？

●コミュニケーションが苦手

言葉がわからない
伝わらないってどういうこと？

●覚えられない・書けない・読めないってどんな気持ち？



こういった疑似体験を通して、当事者の気持ちや障害のこと、知ってみませんか。自治会での会議、伊丹市交通局、児童クラブや夏休みボランティア体験講座等で出張講座の実績があります。年齢や理解度に応じた伝え方も相談可能です。講師料や日程等はお相談ください。

■ お問い合わせ

伊丹市手をつなぐ育成会(アイ愛センター内)疑似体験隊「ぱする」
電話：072-770-5410 担当：小松

預けて安心！自筆証書遺言書保管制度のご案内



令和2年7月10日から、法務局で自筆証書遺言書の保管が可能になりました。

自筆証書遺言書とは、遺言を作成する人が、財産目録を除く全文を自筆で書く遺言書です。公証人の手数料等がかかる公正証書遺言と異なり、自筆証書遺言書は作成費用がかかりません。

自筆で作成した遺言書を法務局で保管することで、紛失や改ざんなどのトラブルが解消され、家庭裁判所の検認も不要になり、また、希望に応じて、遺言者が亡くなられた際に、その相続人等に、法務局が遺言書をお預かりしていることが知らされます。興味のある方は、**神戸地方法務局伊丹支局(TEL：072-779-3451)**までお問い合わせください。

法務局
ホームページ





アイ愛センター公開講座を実施します！

近年、メディア等で「LGBT」という言葉や多様な性についての情報が取り上げられています。言葉だけは聞いた事があるという方も多いのではないのでしょうか？今年度のアイ愛センター公開講座では、当事者であり、一般社団法人日本LGBT協会の代表理事でもある清水展人氏をお招きし、講演いただきます。正しい知識・理解を深め、「誰もが自分らしく暮らす」ということについて一緒に考えてみませんか？

参加費
無料

手話通訳
要約筆記通訳
あり

日 程：令和5年3月21日(火・祝) 14:00～15:30

定 員：50名 (先着順)

場 所：スワンホール3階 多目的ホール小

講 師：一般社団法人 日本LGBT協会 代表理事 清水 展人氏

申込・問合せ：2月17日(金)～2月28日(火)の間に、電話またはFAXで下記までお申込みください。※FAXの方は、氏名(フリガナ)・住所・電話またはFAX番号をご記入の上、送信ください。こちらから確認の連絡をさせていただきます。
TEL：072-772-0221 FAX：072-780-2897



フェスタ・イン・いたみを開催しました！

アイ愛センターでは、昨年12月10日(土)に、毎冬の恒例イベントであるフェスタ・イン・いたみを開催しました。

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、障がい者関係団体等によるバザーのみ実施しましたが、今年度はそれに加え、ポッチャ、ブラインドサッカー、モルックといったスポーツを、簡易なオリジナルルールによるゲーム形式で体験していただくブースを設けました。

スポーツゲームブースは初の試みで不安もありましたが、当日はたくさんの方にご来場いただき、大盛況となりました。

8月に予定していた「手をつなぐ夏の夕べ」も、新型コロナウイルス第7波のために残念ながら中止となるなど、この3年間、このような大型のイベントは中止を余儀なくされてきました。

毎年、夏と冬のイベントを楽しみにして下さっていた方々のためにも、今回のフェスタ・イン・いたみを何とか実施したいという思いで、

実行委員会を中心に計画しました。

開催にあたりご協力いただいた皆さま、ご来場いただいた皆さま、誠にありがとうございました。





赤い羽根共同募金にご協力 ありがとうございました。



昨年10月から始まった赤い羽根共同募金運動は、自治会や学校を始め、さまざまな団体に募金にご協力いただいた結果、令和4年12月28日現在 **合計6,182,613円**となっています。

その内、341,576円はボランティアグループや今回初めてご協力いただいた「スポーツクラブ21こやの里」様と「スクールきると」様などの街頭募金によるものです。

また、今年度は市内の小学生と「ガールスカウト兵庫県第86団」の皆さんが募金箱に飾りつけをしてくださり、市内の11ヶ所に設置しました。

今後も皆さまのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



募金箱に飾りつけをしている小学生たち



街頭募金の様子



飾りつけ募金箱

社会福祉法人 伊丹市社会福祉協議会事務局

伊丹市立地域福祉総合センター
(いたみいきいきプラザ) 内

〒664-0014 伊丹市広畑3-1

業務時間：月曜日～金曜日 9：00～17：30

休業日：土、日曜日・祝日、年末年始

○総務課 Tel.779-8512 Fax.777-0722

○地域福祉推進室

<地域支援課>

・地域福祉推進担当 Tel.785-0860

・ボランティア・市民活動センター

Tel.780-1045 Fax.777-0914

<総合相談支援課>

・地域包括支援センター（基幹型）

Tel.787-6797 Fax.787-6911

・地域生活支援センター

Tel.787-6798 Fax.787-6911

・福祉権利擁護センター

Tel.744-5130 Fax.787-6911

・権利擁護・資金貸付担当

Tel.787-6004 Fax.787-6911

伊丹市立障害者福祉センター・障害者デイサービスセンター
(アイ愛センター) 内

〒664-0015 伊丹市昆陽池2-10

業務時間：火曜日～土曜日 9：00～17：30

休業日：日、月曜日、祝日の翌日、年末年始

○障害者支援室

<障害者福祉センター課>

Tel.772-0221 Fax.780-2897

・障害者生活支援コーナー

・ボランティア・市民活動センター昆陽池分室

Tel.773-8601

<障害者デイサービスセンター課>

・障害者デイサービスセンター

Tel.772-0239 Fax.782-6670



無料

伊丹市社協メールニュース購読者募集中!

右のQRコードを読み取って空メールを送信してください。



Web

ホームページ <http://www.itami-shakyo.or.jp/>

ブログ <http://blog.livedoor.jp/itamishakyo/>